

保護者の皆様へ

城北畑小学校の取組について ～保護者・児童アンケートの結果と学校評価の報告～

丹波篠山市立城北畑小学校

保護者の皆様には、ますますご健勝のことと存じあげます。平素は、本校の教育推進に何かとご理解ご支援をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

今年度も「教育活動のアンケート」へご協力をいただき、ありがとうございました。その結果（裏面：別紙資料）をもとに、課題や改善策についてお伝えさせていただきます。

1. 全体を通して

今年度も新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が実施され、行事の時期をずらしたり、内容や方法を工夫して実施したりしてきました。手洗い・消毒やマスク着用などが習慣になってきているとはいえ、集団生活をする学校では、子どもたちも予防のために様々な対策をして生活を送っています。

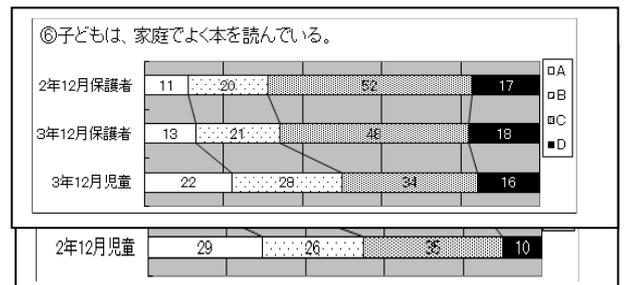
2年目になるコロナ禍においても、裏面の「R3保護者・児童アンケートの結果」の通り、ほとんどの項目でA（大変良い）とB（良い）を合わせた肯定的な回答が、前年度同様に8割を超えていることは、安定した学校生活を送れていると捉えています。

その中で、生活や学習をより良くしていくために以下のことを考えました。

2. 読書の習慣化

読書習慣の形成がここ数年来の課題と言えます。全体の約7割弱の子が家で読書をするのが1週間に0～2日、その中に全く読書をしていない子が約2割いるという実態が分かります。

保護者の皆さんもご存じと思いますが、読書にはたくさんメリットがあります。



読書で得られる7つの効果（ベネッセ教育情報サイトより 一部抜粋）

【語彙力や読解力が身に付く】【集中力が養われる】【知識が増える】【想像力が豊かになる】
【人の気持ちがわかりコミュニケーション力が高まる】【自己肯定感が高くなる】【気持ちが安定す
では、どうすれば習慣付くのでしょうか。

子どもの読書習慣が身に付く方法6選

大切なのは無理強いしないことです。自然に無理なく本に触れられる機会を作ってあげてください。

【家の中に本を置く】いつでも手に取れるように、リビングや寝室、廊下など、家のさまざまな場所に本を置いておきます。絵本、小説、図鑑、辞書など、幅広いジャンルの本があると良いです。図書館や市民センター、本屋さんに定期的に足を運ぶのもおすすめです。

【すき間時間を作る】読書には時間が必要です。予定を詰め込むのではなく、読書ができるように余暇の時間を作ってあげてください。意識的に時間を作ってあげることも大事です。例えば、習い事に少し早く到着して車で本を読むといった方法があります。

【親も読書をする】まずは、大人がお手本になって読書をする習慣を付けてみましょう。読書のメリットを保護者自身が体感した方が、子どもにも伝わりやすいです。お子さまが学校から借りてきた本と一緒に読んで、感想を共有するのも良いですね。

【マンガや絵本もOK】読書は、小説など活字ばかりの本でなくてもOKです。マンガや絵本、図鑑なども立派な本。活字を読み、想像力を膨らませるといった効果は十分得られます。

【スマホやタブレットも活用する】スマホやタブレットの普及が読書離れの原因ともいわれていますが、あえてそれを活用する方法もあります。スマホのアプリには絵本や小説を読めるものがあり、すき間時間で読めるためとっても手軽です。視力などへの影響に気を付けながら、新しい読書の形として取り入れてみてください。

【読み聞かせを

続ける】読み聞かせは、小・中学校になっても続けて良いものです。読み聞かせなら、読書をしないお子さまでも本に触れることができます。絵本でなくてもOK。短編小説や昔話などを保護者の方が読み、それを聞

学校では、低学年の内は週に1時間図書の時間があります。他にも、教師やクリンソウの会による読み聞かせ、朝の読書、すき間時間（テストの後など）の読書、市の図書館からの本を団体貸出で入れ替える、子ども同士で本を紹介し合う（ビブリオバトル等）など、本を読む時間をつくり、読みたい気持ちを高める取り組みをしています。

年に2回お世話になっている道德の親子読書も、よい読書活動の機会になっています。読書習慣を身に付けるために、更なるご協力をよろしくお願いいたします。

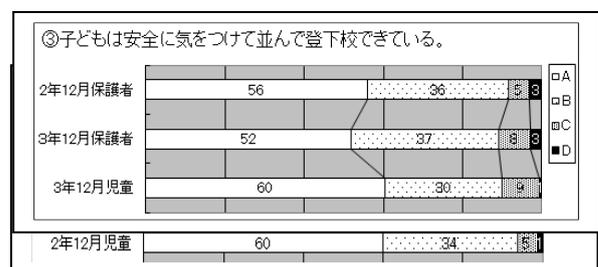
3. 登下校について

保護者のA評価をみると、昨年度より4%下がっています。一昨年度からは13%も下がりました。児童のCD評価も増えています。

毎学期の始めと終わりの校外児童会では、登下校のめあてや並び方を決め、登下校の様子をふり返っています。2学期末の校外児童会では、それぞれの登校班から気を付けたいこととして「走らない」「決めた並び方ができていない」「列をみださない」「遊びながら帰らない」「ばらばらで下校しない」「遅れたら走る。それを待つ」などの反省が出ていました。校外児童会で指導し、登校指導と下校指導では現地で指導もしていますが、体格差のある低学年から高学年の児童と一緒に集団登校するので、いろいろな思いがあるようです。

ただ、大変なことばかりではなく、低学年の子を連れてくるために知恵を出し合ったり、怪我をした子に優しく接したり、頼もしい高学年にあこがれたり、異年齢集団での登下校では素晴らしい社会性を身につけることができます。

登下校は何よりも安全第一です。「いってらっしゃい」と共に「きちんと並ぶんだよ」「みんなで仲良くね」「6年生の言うことを聞くんだよ」「小さい子の様子を見るんだよ」等とお声かけをしたり様子を見たりしていただけるとありがたいです。よろしくお願いいたします。



4. 楽しい学校生活に

①『子どもは、喜んで学校に行っている』の項目では、保護者も児童も約1割がCD評価になっています。

集団で過ごすのが好きな子やそうでない子、勉強が好きな子、運動が好きな子、給食が楽しみな子、家でのおんぼりするのが好きな子など、様々な子どもと一緒に生活をする、それが学校です。だからこそ一人一人の子が「学校に行って良かった」「～できるようになった」「明日は〇〇が楽しみだ」と言える学級・学校づくりをしていきたいと考えています。そのために、安心して学べるようにわかる授業・楽しい授業を目指し、学校行事や児童会活動、学級活動などで子どもが活躍する場を創っていきます。

今後ともご支援、ご協力よろしくお願いいたします。

